

地域の公共施設の未来を考えるワークショップ第2回

川崎区 | 開催結果まとめ

開催概要

○実施日時・場所

・ 2024 年 2 月 17 日（土） 14:00～17:00

○場所

・ 川崎市役所本庁舎 復元棟 3 階 301～303 会議室

○参加人数

・ 参加者 14 名（事前申込 35 名、欠席者 21 名）

○アンケート回答者数

・ 14 名（ 100%）



結果の概要

グループ	グループのまとめ
1G	新旧の住民や、多様な国籍の人たちの交流の場と機会づくりを目指そう 小中学校の空きスペースを食・スポーツ・音楽のコミュニティ用に開放しよう 子どもの自由な遊び場や悩み相談と自立した高齢者ライフの実現を目指そう 自立したシニアが遊びを教えてくれる、一緒に謝り行くになど見守りの係員になってくれる遊び場をつくろう 集中して勉強・仕事ができるスペースがまちにあることを目指そう 小中学校の空きスペース開放（近所にあることが大事）、庁舎やカルッツなどネットで利用状況がわかる仕組みをつくろう 若い人たちが地域のイベントなどで地域に関わるきっかけの情報提供を目指そう Peatix と市が協働して地域のイベント情報と出欠がわかる多言語対応のアプリ・システムをつくろう
2G	いろいろな情報があたりまえに知れる環境になる ・チラシの配布方法を変える ・それぞれの公共施設で PC が無料で使えるになる 世代をこえて交流ができる ・地域の人が先生になったり、プロアスリートに教えてもらう ・教えた人はポイントがもらえる ・人とつながれるハブ施設がある ・一人でも楽しめる ・好きでつながる ・にぎわいがある 各施設がもっと入りやすい工夫がされていると良い ・ドアが大きい ・窓が大きくて中が見える ・誰がいるかわかる ・どんな人が使っているかわかる 公共施設などを土日も開放してほしい！ ・市役所、学校、子育て施設など
3G	様々な世代と一緒に過ごせる、生涯学習の総合的施設のようなものがあると良い 地域の人々が互助的なオンラインサービスでつながっており、リアル支援の際に会場等の支援をする 学校開放は個人でも使えるようにして運動できる場所を増やしコミュニティを育てる 子どもを預けられる場所が近くにあり、子どもが病気の時も安心して仕事ができる

■ 1 グループ



意見交換① 地域の魅力的な将来像を考えよう

- 1) 20年後、どんな人がまちにいて、その人がどんな日常を過ごしているのか考えよう（日常の楽しみや困っていることなど）

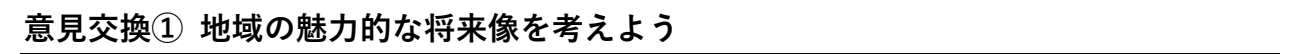
黄塗りは川崎区固有ベルソナ

ベルソナ 1	ベルソナ 2	ベルソナ 3
プロアスリート ・ 普段は所属チームのトレーニングに参加したり、自主トレをしている ・ 食事は基本的に自宅 ・ もう少し子どもが大きくなった時に外で安全に遊べる場所がない	インド出身のエンジニア ・ インド人コミュニティでの活動に参加、食事やアニメの上映会など ・ 日本人の居住者とのコミュニケーションがうまく取れない	小学生 ・ 学童で宿題をしている ・ 塾に通っているのに、友達と遊べない、時間がない ・ 母親は仕事が忙しく、スキンシップ不足
ベルソナ 4	ベルソナ 5	
2人の子どもがいるシングルマザー ・ 町内の近所の人にお菓子を配っている ・ 子どもと遊んであげたいが、自分の時間もほしい ・ 将来自宅が手狭になるのではと心配している	高齢者(70代) ・ 趣味の音楽関連の地域交流をしている ・ 70代同士の2人暮らしで今後の介護のことなどが心配	

2) 自分たちの考えた人たちがいきいきと暮らしている 20 年後の地域の将来像を出し合おう	意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方アイデア
●多様な国籍の人たちに触れて、理解を深める機会がある ・インド人コミュニティのカレーパーティなど、異文化に触れて理解して楽しめるイベント	●小中学校の空きスペースをイベント等のコミュニティ用途で開放する(◎1) ・小中学校をイベントスペースにして開放
●新旧の住民が仲良くなれるきっかけがたくさんある(●1) ・地元出身の方と外国人を含む新しく引っ越してきた方が定期的に交流できる場やイベントがあると良い ・地元の方と子どもを通じて知り合う ・外様だと地域コミュニティに入りづらい ・大人も子どももお互いが顔見知りになれるようなコミュニティ ・お互いに顔見知りになれるきっかけ、コミュニティ	●お祭りと連動したおみこし体験イベントを実施する ・お祭りと連動したおみこし体験イベントをやることで新旧住民が交流できるようにする
●色々な国や文化の違いを活かした情報交換ができる ・国籍関係なく交流できたり、情報交換ができる ●外国の人とスポーツを通じたコミュニケーション ・外国人とボッチャ等のスポーツを通じて交流と町民の一員に活動の輪を広げる	●カルッツ川崎で外国人と一緒に各国のスポーツを楽しみながら交流する ・カルッツ川崎でスポーツ推進委員が指導する ・カルッツ川崎で気軽にプレイ ・インドではクリケット
●経済的な心配もなく、趣味を通じた健康づくりで医療費減、自立した高齢者ライフ(◎1) ・高齢者は NISA 投資運用で生活費の補助を入手 ・趣味のハイキングで体力アップ、健康推進、医療費削減 ・自立型老人は多くの方々とエンジョイする ●子どもが安心して悩みを相談できる(●1) ・子どもが悩みを安心して相談できる ●徒歩 5 分のアクセスが良い場所に子どもも親も安心して遊べる場所がある(◎2) ・子どもも親も安心して遊べる場所 ・ボール遊びや水遊びが安全にできる公園 ・ボール遊びや水遊びができる公園 ・競馬場は子どもが遊べる	●自立シニアが係員になり見守りしてくれる公園 ・係員が見守りしてくれており、ボールや道具を貸し出してくれる公園 ・貸し出しあり ・子育て終了のご婦人やおじいちゃんたちが人手不足解消のため子育て支援ネットワークをつくって、子どもを安心して預けられるようにする ●平日の放課後の遊び場としての小中学校の校庭の開放 ・小中学校の校庭を放課後にもっと自由に使えるようにしてほしい ・放課後の学校の校庭を開放
●シングルマザーや子育てに対する支援が充実	●大学・高校の学費の無償化

・シングルマザーや子育て世代に対する支援がもっと手厚くなっていると安心 ・子育てのお金と時間への不安解消	
●集中して勉強や仕事ができるスペースがある(●4) ・集中して勉強や仕事ができる自習スペースやワークスペースがあったら良い	●庁舎やカルッツなどの公共施設の空き時間をワークスペースにする ・役所やカルッツの余っている会議室や使われていない時間を自習スペース・ワークスペースに ・ネットで空き時間や空いている部屋の確認も ・ネット・スマホで利用できるかわかるシステム ●小学校の空き教室を活用して中高生の自習室にする ・休日に小学校教室を中学生・高校生等に開放して、自習室に変える ・家の近所にあることが大事
●若い人たちが地域に関わるきっかけの情報がしっかり届いている(●1) ・地域や近所の人との交流の機会が昔のようにたくさんあったら、その情報がより多くの人に確実に伝われば ・地域の活動やイベントもいつの間にかやられている	●多言語での情報発信 ・日本語だけでなく他の言語での情報発信 ●地元のイベント情報がわかるアプリ(●1) ・地元の祭りの情報や参加希望かどうかなどがアプリで確認できる ・Peatix と川崎市がコラボ ●区役所主導での町会単位や区単位での情報プラットフォーム ・情報プラットフォーム
●広々とした家に住んで、ゆったり静かに安心して過ごせる ・広々とした家で過ごしたい	●町内会のイベントに若い人・子どもが参加できる仕組みづくり ・町内会のイベントに若い人が参加できるシステムをつくる ・結果、町内の活性化と子どもたちの遊びも楽しくできる

グループのまとめ		
新旧の住民や、多様な国籍の人たちの交流の場と機会づくりを目指そう ・小中学校の空きスペースを食・スポーツ・音楽のコミュニティ用に開放しよう	子どもの自由な遊び場や悩み相談と自立した高齢者ライフの実現を目指そう ・自立したシニアが遊びを教えてくれる、一緒に謝り行くになど見守りの係員になってくれる遊び場をつくろう	集中して勉強・仕事ができるスペースがまちにあることを目指そう ・小中学校の空きスペース開放（近所にあることが大事）、庁舎やカルッツなどネットで利用状況がわかる仕組みをつくろう
若い人たちが地域のイベントなどで地域に関わるきっかけの情報提供を目指そう ・Peatix と市が協働して地域のイベント情報と出欠がわかる多言語対応のアプリ・システムをつくろう		



黄塗りは川崎区固有ペルソナ

7

・高齢の母がいるので、長時間外出ができず、少々ストレスが増加中 ・自分と夫の体力的にも旅行の計画が立たずに困っている ・サークルの役員の声もかかったが、お断りした ・子どもの存在があるとしたら、手伝ってくれていない		・北海道から来たばかりでどうやってつながりをつくっていいかわからない ・一人でさみしい ・相談できる場所はないかな
ペルソナ7		
インド出身のエンジニア ・毎週日曜にあるインド人コミュニティで交流会をしている ・子どもと公園で遊んだり、アニメを見る ・日本のことをもっと知りたくて家族でお出かけ ・会社以外の日本人となかなか友達になれない ・公園が減ってきた ・日本語ができないのでコミュニティに参加できない		

2) 自分たちの考えた人たちがいきいきと暮らしている 20 年後の地域の将来像を出し合おう	意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方アイデア
●世代間交流の場がある(◎1●2) ・世代間交流の場 ・プロアスリート、地域の町内会の人々が先生になって、スポーツや音楽等を子どもたちと一緒に楽しみながら教える ・プロアスリートが先生になる ・地域の人々が先生になれる ・小学校に地域の人が入りにくいから、地域の中にそういう場があると良い	●若い人が参加しやすい・したくなるようなしかけがあると良い ・地域活動・町内会、イベント手伝いや、防災訓練に参加したら即ピットと判明して学校や企業でもわかって、何かしらのポイントにつながるような ・ボランティアをしたり、先生をするとポイントがもらえる
●プロと一緒に遊べるスポーツイベントがある ・スポーツイベントでプロアスリート・子どもと一緒に遊ぶ ・駅ポスター ・ネット	
●まちの中にある空きスペースが公園などの遊べる場所になると良い ・人口が減っているのなら、空いた場所に公園など、外を有効に使える	●公園で1人でもみんなでも楽しめるイベントなどが開催されていると良い ・一人でもみんなでも、地域で集う ・公園など身近な施設だと集まりやすくなる ・公園だとイベントがあると良い
●公共施設が人とつながりをつくるハブになる施設になっている(◎1)	●各施設がもっと入りやすい空間になる工夫がされている(◎1●1)

・人とのつながりをつくるハブになるような場所 ・公共施設に集う ●飲食ができた、歌えたり、自由に過ごせるにぎわいのある場所がある ・人が集えたり、にぎわいのある場所 ・食べたり、飲んだり、歌ったり ●一人でも楽しめる場や空間があると良い	・「話しかけてもいいよ！」「集中したいよ！」がわかるようになっている ・入りやすいように中が見えると良い ・ドアがあると入る時に少しハードルがあるかも ・行くと誰かいる ・無理につながらない ・好きなものでつながる ・「やっちゃダメ」が多いから、そう言ったものが少なくなっている ・年代を超えて参加できると良い ・飲食×施設
●市民目線のイベントがある ・横のつながりがしやすい ・市役所が交流の場になる ・市民目線のイベント ・市民と役所の関係	●意外と知らない川崎情報を知れる ・市役所と第3庁舎がつながっている ・東扇島の海底トンネルは自転車で行ける ●市役所や子育て支援施設など公共施設の利用時間が増え、土日解放されると良い(●2) ・市役所、学校、校庭など ・多少アクセスが悪くても人が集まる場所が市役所や公共施設 ・身近にあるもの ・校庭、体育館開放
	●交通のアクセスが良くなる(●1) ・駐輪場が増えると良い ・駐輪場を増やしてほしい ・土日に空いていれば良い ・バスのアクセスが縦しかないで横の導線があると良い ・今社会実験をしている「のるーと KAWASAKI」というデマンド交通を実装させる
●国際的なイベントがあることが当たり前になっている ・インターナショナルのお祭り ・外国人が参加しやすい ・自分の出身の国のイベントやお祭りがしたいという外国人がいる ・広報をもっと ・当たり前になっている ●語学や県人会などカルチャーイベントがある ・日本語、英語、ヒンディー語など、インドと日本がお互い学べる ・語学が学べる ・インド、韓国、中国のコミュニティがオープンになると良い ・県人会	●どの国のコミュニティがあるのか施設ごとに紹介されていると良い(●1) ・どの施設をどの国の人たちが使っているのか、コミュニティがあるのかわかると良い

●色々な情報が手軽に入手できる環境になっていると良い(◎2●2) ・川崎は閉鎖的な印象がある ・地域の情報をあたり前のように知っている ・ホームページが見やすくなっている ・北テラスや各施設にあると良い ・年間の定例イベントは時期に調べる ・広報や町内会のチラシなど	●無料で活用できるパソコンが常設され、年配の方でもネットを活用した情報収集ができる(●1) ・無料で使える PC があると良い ・使い方も教えてもらえる ●それぞれの施設の使い方がわかりやすいと 20 年後も使われる施設になっている(●1) ・富士見公園、公共施設の利用、町内会、神社 ・神社・町内会・公園など
●町内会の担い手として、40 代くらいから声かけできると地域とつながれるきっかけが持てる ・地域とつながれる ・40 代くらいから声かけできると良さそう ・町内会に入っている人が少ないエリアがある ・子ども会からゆるく声かけする	●町内会同士の横のつながりをつくるきっかけをつくる ・町内会同士の横のつながりをつくるきっかけをつくっている ・若手がいないと活動が繋がらない

グループのまとめ		
いろいろな情報があたりまえに知れる環境になる ・チラシの配布方法を変える ・それぞれの公共施設で PC が無料で使えるになる	世代をこえて交流ができる ・地域の人が先生になったり、プロアスリートに教えてもらう ・教えた人はポイントがもらえる ・人とつながれるハブ施設がある ・一人でも楽しめる ・好きでつながる ・にぎわいがある	各施設がもっと入りやすい工夫がされていると良い ・ドアが大きい ・窓が大きくて中が見える ・誰がいるかわかる ・どんな人が使っているかわかる
公共施設などを土日も開放してほしい！ ・市役所、学校、子育て施設など		

■ 3 グループ



意見交換① 地域の魅力的な将来像を考えよう

- 1) 20年後、どんな人がまちにいて、その人がどんな日常を過ごしているのか考えよう（日常の楽しみや困っていることなど）

黄塗りは川崎区固有ペルソナ

ペルソナ 1	ペルソナ 2	ペルソナ 3
大学生 ・講義と就寝以外はメタバース空間に入り浸り ・行政手続きや通院など現実世界の課題解決は不慣れで不安、何かあった時の備えがない	2人の子どもがいるシングルマザー ・地域の人々もそれぞれ忙しくなかなかつながりを持つことが難しく苦勞している ・子育てが終わった人々が協力できたら	工場勤務 ・工場はほぼ自動化されているので、機械に指示をしているのがメインの仕事で、体がなまっている ・サッカー観戦のみなので不健康
ペルソナ 4	ペルソナ 5	
インド出身のエンジニア ・仕事を続けながら外国語の学習講師をしている ・人種差別に悩む ・インド人が各分野で活躍している様子 ・IT企業の最先端で活躍中	町会役員 ・地震時に向こう三軒両隣の精神でボランティア活動 ・町会役員として町会 PR ・町内会に入会してもらい、資源回収・ゲートボール・歩こう会等の活動	

	・孫の小中学校の運動会を見に行く ・夫婦でスポーツクラブに入会、歩こう会にも ・小学校に火おこし・ベーゴマ・スポーツ活動推進 ・メリットがないため町会に入る人が少ない ・相撲の友風後援会に入っている	
--	---	--

2) 自分たちの考えた人たちがいきいきと暮らしている 20 年後の地域の将来像を出し合おう	意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方アイデア
●定期的に体を動かしたい人が集まって運動できる場所とコミュニティがある(◎1) ・メタバース空間を含め、定期的に集まって体を動かせる場所の提供 ・工場勤務のペルソナはサッカーチームのファンだけでなく子どもにサッカー指導、地域スポーツ活動をしている ・子どもにもスポーツを教える大人がいる	●学校開放は小学校だけでなく中・高校も(◎1) ・定期的に体を動かす機会を作るため、現状の施設開放の拡大、制限の縮小、新町小学校・中学校・高校への拡大 ・学校のグラウンド開放 ・時には部活と一緒に体を動かす ・学校空き教室の有効活用、体育館・校庭開放で映画鑑賞 ●登録した団体のみが使えているが、個人でも使えるように ・登録した団体のみが使えているが、個人でも使えるように、使い方がわかりづらい
●無料で魅力的なイベントがある ・人を呼び、集客するために、魅力的なイベント（人など）を無料で行う	●市が地域のイベントを場所・金銭的に支援する ・イベントの場所を無料で開放 ・主催者にお金を払う
●大学生など若い世代も消防団に入団し、災害時の応援に入る ・大学生に消防団に入団してもらい、災害時の応援、魅力ある活動	
●地域の人々がオンライン相談サービスでつながっている ・オンライン相談サービス ・相談カテゴリー×町名で①情報提供、②アテンド・付き添い、③代行・互助 ・チケット購入・交換制 ●困ったことに対して多様な互助サービスが多数行われている(◎1●2)	●市も、実際支援が行われた時には会場等の支援をする(●1) ・相談サービスによる交通費・会場費（施設利用料）は無償(公共施設)
●子どもが病気の時も、子どもを預けられる場所が近くにあり、安心して仕事ができる(●3) ・子どもを預ける場所が近くにあり、時間などのことを気にせずに預けられれば仕事がバリバリできる	●地域見守り支援センターの充実を(●1) ・空き施設を流用して子どもを預けられる地域見守り支援センターの充実・増設

・子どもに熱などがでた時に安心して預けられる場所があれば	
●子ども会や若竹会(親子で参加する小学校に入る前のお子さんの会)の活動に参加する人が多い ・若竹会、子ども会の活動に参加してもらう ・町内会館や老人いこいの家でお菓子づくり	●子ども文化センターのほか、若竹文化センターの設置 ・小学生以外も使いやすいように子ども文化センターはネーミングを変える ・若竹文化センターもつくって ●子どもだけでなく色々な世代が一緒に過ごせる場所に(◎2●1) ・幼稚園児くらいの年齢の子どもと老人と一緒に過ごせる場所を ・子どもだけでなく色々な年齢層が一緒でもいいのでは ●様々な世代の人が使える生涯学習の総合施設があると良い ・子ども、小中高大、生涯学習などの総合施設 ●老人いこいの家のネーミングが悪い ・「老人」が入った名前はあまりよくない
●在日外国人とのふれあいが多く、外国人が町会に入っており、外国人の得意なことを教えてもらう(●1) ・さまざまな国の良さを伝えることができるまち ・インド人との交流で暗算を教わり、カレーライスの味を教えてください ・町会に入ってもらい、町内会館 ・地域とのふれあいが多いまち ・地域主催のイベントに外国人も積極的に参加できるまち ・NPOを通じてインドの良さを伝えることができる雰囲気の良いまちへ、広い視野に立って	
●町会の見守り活動が盛んで、加入している人としていない人の受けられるサービスに、差別ではなく区別がある ・町会へ加入促進 ・差別は良くないが区別を鮮明に打ち出す ・イベント参加はOKだが、区別として有料または無料 ・町会や、NPO→法人会で見守り活動、遊ばせる	●町内会館を有効活用する ・公共施設ではないが、町内会館の有効活用と、パソコン教室の指導者育成 ●町内会の活動に市から補助をもっと増やしてほしい(●1) ・地域住民の目線に立って町内会の活動への転換へ ・市のお金の補助

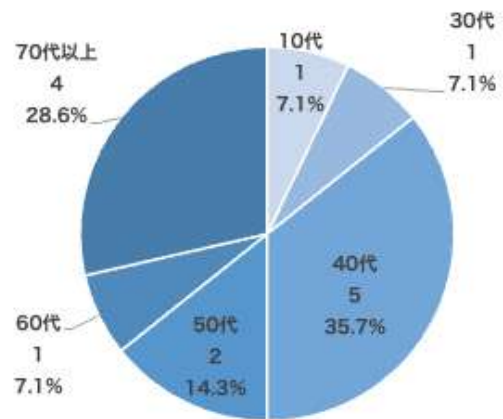
グループのまとめ		
様々な世代と一緒に過ごせる、生涯学習の総合的施設のようなものがあると良い	地域の人々が互助的なオンラインサービスでつながっており、リアル支援の際に会場等の支援をする	学校開放は個人でも使えるようにして運動できる場所を増やしコミュニティを育てる
子どもを預けられる場所が近くにある、子どもが病気の時も安心して仕事ができる		

川崎区 | ワークショップアンケート結果まとめ

参加者 14 名、回答率 100%

1. あなたの年代に○をつけてください

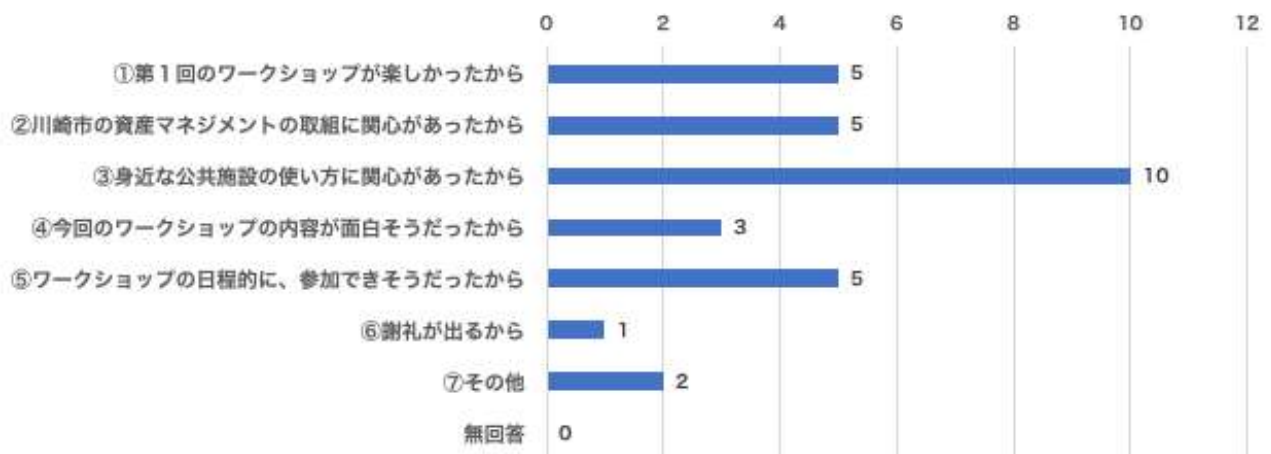
10 代	1	7.1%
20 代	0	0.0%
30 代	1	7.1%
40 代	5	35.7%
50 代	2	14.3%
60 代	1	7.1%
70 代以上	4	28.6%
無回答	0	0.0%
計	14	100.0%



2. 今回のワークショップへの参加を決めた理由は何ですか。(複数回答)

「身近な公共施設の使い方に関心があったから」が最も多く、次いで「第1回のワークショップが楽しかったから」「川崎市の資産マネジメントの取組に関心があったから」「ワークショップの日程的に、参加できそうだったから」が同数であった。

①第1回のワークショップが楽しかったから	5	16.1%
②川崎市の資産マネジメントの取組に関心があったから	5	16.1%
③身近な公共施設の使い方に関心があったから	10	32.3%
④今回のワークショップの内容が面白そうだったから	3	9.7%
⑤ワークショップの日程的に、参加できそうだったから	5	16.1%
⑥謝礼が出るから	1	3.2%
⑦その他	2	6.5%
無回答	0	0.0%
計	31	100.0%



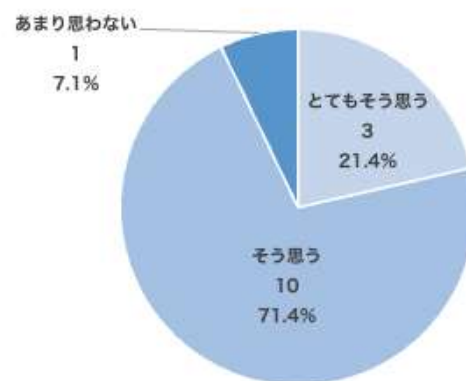
「その他」の記載

- ・受験の時に使えたらいいな
- ・第1回に参加して、2回目以降も継続して参加が必須と思ったから

3. 第2回のワークショップを通じて、モデル地域のことについて理解できましたか？

「とてもそう思う」が20%超、「そう思う」が70%超と、9割以上の方が理解できたと回答した。

とてもそう思う	3	21.4%
そう思う	10	71.4%
どちらでもない	0	0.0%
あまり思わない	1	7.1%
全く思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	14	100.0%



○をつけた理由をお書きください。

○「とてもそう思う」理由

- ・今まで知らなかったことを知ることができて、大変良かったです
- ・ペルソナを置くことで、具体的なアンメットニーズを想像しやすかった。また、ペルソナにこだわらず普段自分が困っていることも題材にできたので、より20年後こうなっていてほしいというアイデアが出てきやすかった

- ・川崎に暮らす人々が暮らしやすくするにはどうすれば良いか具体的にイメージでき、考えることができた

○「そう思う」理由

- ・川崎区は高齢化が進み、公共施設のあり方、使い方に変化させていかないといけないと思っていたから
- ・前回よりもより具体的、現実的な話をしたのでより理解できた
- ・同じグループの方々と共通した課題や、新たな課題の発見もあり、理解が深まった
- ・色々な世代で話ができて良かった
- ・他の皆様のご意見などをお聞きしながら WS を実際に行って、理解が深まった
- ・色々な話が聞けたから
- ・当グループは町内会活動の充実についても意見が出た。現状の町会役員としての活動にも活かせるかなと思った

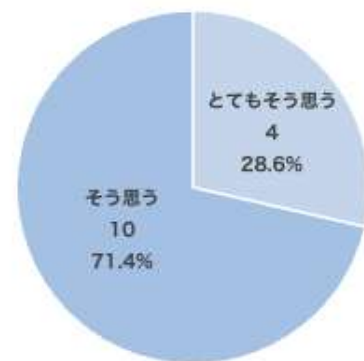
○「あまり思わない」理由

- ・モデル地域について理解していません

4. 「ペルソナ」を通じ、モデル地域の魅力的な将来像や施設の使い方を考えることができましたか？

「とてもそう思う」30%弱、「そう思う」が70%強と、全ての人が考えることができたと回答した。

とてもそう思う	4	28.6%
そう思う	10	71.4%
どちらでもない	0	0.0%
あまり思わない	0	0.0%
全く思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	14	100.0%



○つけた理由をお書きください。

○「とてもそう思う」理由

- ・さまざまな人々の話を聞いて楽しかったです。施設利用についてさまざまな工夫がなされていることがわかりました。
- ・夢を持つことができた

- ・色々な人がいるということを具体的に考えることができ、何が必要か想像することができた

○「そう思う」理由

- ・具体的なテーマや切り口がわかり、作業、作成がしやすかった
- ・色々な人の立場で困っていることを考え、改善のための公共施設のより良い利用を考えられたから
- ・具体的なペルソナがいることで、生活の想像がリアルにできた。また、課題も具体的に発見できた
- ・色々な人の考えが聞けて参考になった。また、自分で考える時間ができた
- ・少しできた
- ・ペルソナを通じて、自分と違う立場や全く異なる人格の立場からの目線で考察するという経験ができた
- ・対象のニーズ、課題を想像しやすかったため

5.次回に向けたご意見や、本日参加した感想などご自由にお書きください。

○様々な人の話を聞けて楽しかった。次回を楽しみにしている

- ・さまざまな世代の方の話を聞けて楽しかったです。
- ・人によって意見が違うので面白かったです。次回も楽しく参加させていただこうと思います
- ・みんなちゃんとコミュニティーができていた
- ・第3回に向けて継続して参加したいと思った
- ・次回も楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします

○区や市の課題がわかってきた

- ・区や市の人たちがどのようなことを考えて、どのようなことが課題になっているのかが少しだけわかった気がする。自分にとっても良い経験になりそうで、そして自分の住んでいる地域がより良いものになってくれたら嬉しい

○次回はより具体的に考えたい

- ・第3回は、老朽化施設と施設の活用方法を具体的に考えてみたい。時代時代に合った活用をいかにすべきか。
- ・回を重ねるごとにより具体的な内容になっていくので自分の頭もリアルになっていく

○公共施設をもっと知ろうと思った

- ・公共施設をもっと知ろうと思った

○市民の声をたくさん取り入れてほしい

- ・第1回目より、より具体的に考えることができました。区長さんがおっしゃっていましたが、市民の声をたくさん取り入れて欲しいです。私たちの街なので

○日程を早めに知らせてほしい

- ・仕事のシフトや個人的な用事などもあるので、日程は早めにお知らせください